



海外ボランティア経験教員の 還元と社会貢献

— 実施動向・取組事例と今後の可能性

2010年1月9-10日

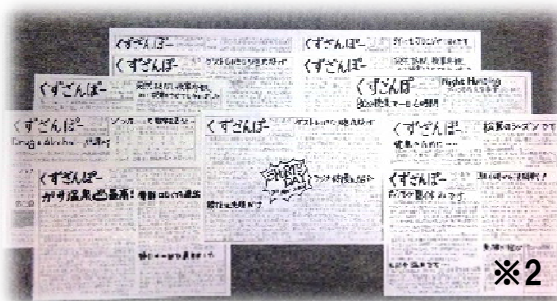
青年海外協力隊等派遣現職教員特別研修・
帰国報告会@筑波大学東京キャンパス



佐藤真久¹

¹東京都市大学 環境情報学部 (m-sato@tcu.ac.jp)

※1: ◎ N教諭(ドミニカ:小学校教諭)、2: ◎ M教諭(ブータン:体育教師)、3: ◎ S教諭(ベトナム:小学校教諭)、
4: ◎ O教諭(フィリピン:小学校教諭)、5: ◎ I教諭(ホンジュラス:小学校教諭)





海外ボランティア経験教員の還元・貢献 調査研究の概要



調査研究の概要 —その背景と研究目的

海外ボランティア※1経験教員の還元※2・貢献活動の動向や具体的な活動事例に関する情報を、経験教員、所属学校長、教育委員会・自治体から収集し分析

- **現況把握(実施動向と事例の把握)**
- **海外ボランティア経験教員が国内外の社会に還元・貢献できる潜在性・可能性の把握**
- **「現職教員特別参加制度」や組織的取組みの推進にむけた課題を整理**

※1:本調査研究では、国際協力機構の実施する青年海外協力隊派遣事業をさす
※2:「還元」とは、海外での経験を日本のさまざまな活動に活かすことを意味する



調査研究の概要 －全体の構成

(1)教育委員会・自治体
による制度活用にもつた
取組みの動向調査
(調査票調査)
(インタビュー調査)



教育委員会
自治体
対象

アンケート

(2)経験教員と学校による
取組みの動向調査
(調査票調査)



JOCV
経験教員・
対象

アンケート

経験教員
所属学校長
対象

アンケート

(3)経験教員による取組
みの事例調査
(インタビュー調査)



※1

- 現況把握(実施動向と事例の把握)
- 海外ボランティア経験教員が国内外の社会に還元・貢献できる潜在性・可能性の把握
- 「現職教員特別参加制度」や組織的取組みの推進にもつた課題を整理

※1: © T教諭(ジンバブエ:体育教師)



調査研究の概要 －各調査の主目的


(1)教育委員会・自治体による制度活用に向けた 取組みの動向調査 (調査票調査・インタビュー調査)

「現職教員特別参加制度」の活用において、47全国都道府県と17政令指定都市を対象に、調査票による動向調査を実施

－調査実施期間：2009年10月－11月末、回収率：10割

－調査票調査内容：(a)帰国後の還元・貢献活動に関する意義、(b)組織的対応、(c)取組み事例、(d)効果的に推進できる仕組み、(e)還元・貢献活動領域の潜在性・可能性、(f)各組織の機能・役割、(g)能力向上・評価・人事

→一部の教育委員会・自治体に対するインタビュー調査(補足調査)が予定(調査予定期間：2010年1月－2月)



都道府県・政令指定都市
教育委員会

全国動向調査
(調査票調査)




調査研究の概要 —各調査の主目的

(2)海外ボランティア経験教員と 学校による取組みの動向調査 (調査票調査)

「現職教員特別参加制度」を活用した現職経験教員と
その所属学校長を対象に、調査票調査を実施
(実施期間:2009年10月－11月末、回収率:2割程度)

—調査票調査内容(経験教員所属学校長):(a)制度の
認知度、(b)帰国後の還元・貢献、(c)派遣活動中における
日本の教育への還元

—調査票調査内容(経験教員):(a)参加動機、(b)制度
認識と対応、(c)派遣中の活動内容と還元・貢献活動、(d)
派遣による自身の変化、(e)派遣後の還元・貢献活動(学
校における授業内外の取組み事例、学校外との取組み事
例)、(f)還元・貢献活動の阻害・貢献要因、(g)提案、(h)
国際教育協力のイメージ



制度を活用したJOCV経験
教員+所属学校長

全国動向調査
(調査票調査)



調査研究の概要 —各調査の主目的



(3)海外ボランティア経験教員による 取組みの事例調査(インタビュー調査)

「現職教員特別参加制度」を活用し、派遣中・派遣後の還元・貢献活動で多様な成果を上げている現職教員を主に選び、所属学校において詳細なインタビュー調査(2時間程度)を実施

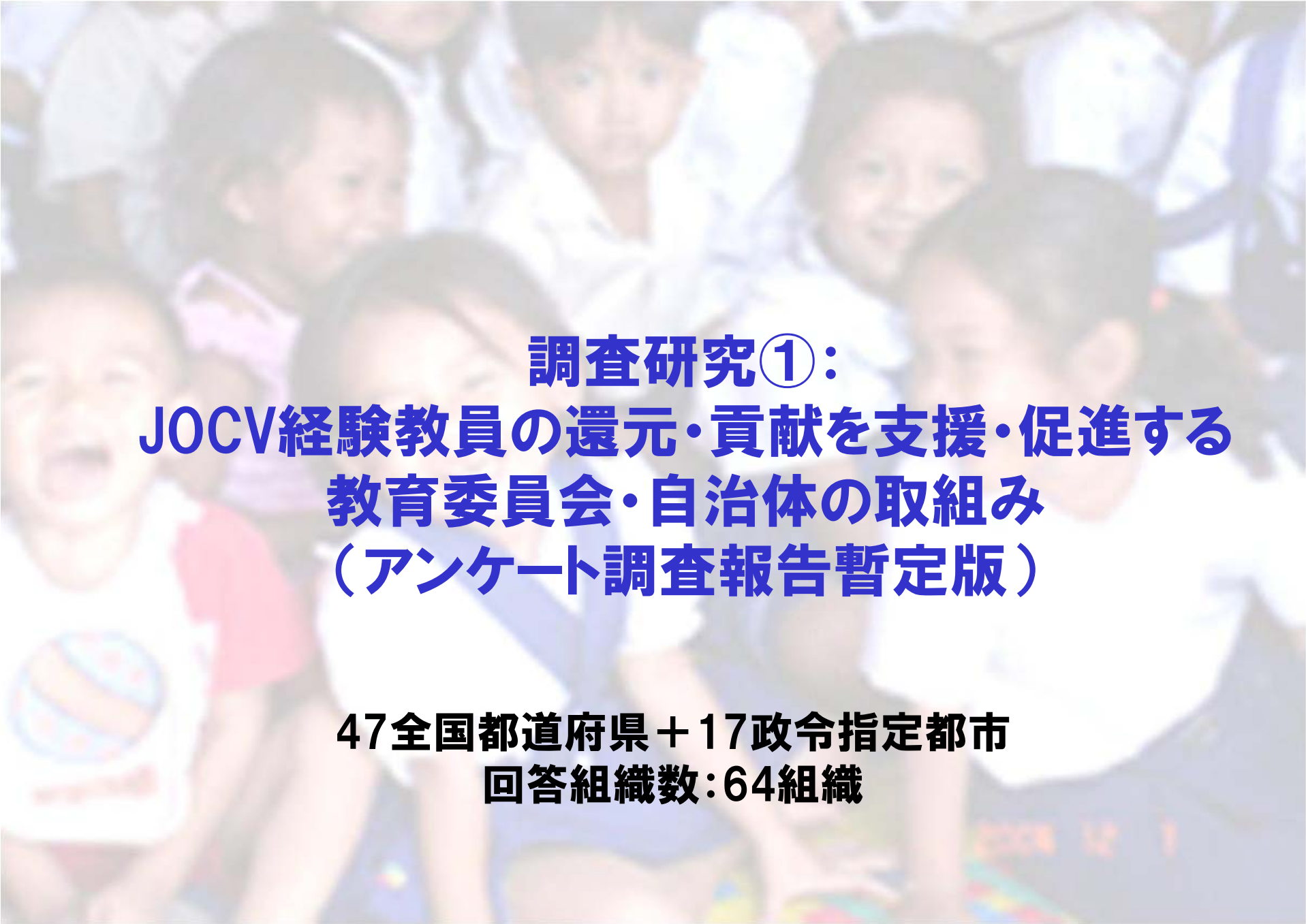
(実施期間:2009年11月—2010年1月)



—調査対象:20名程度

—調査対象の選定:調査票調査(2)の結果と関係機関(JICAや文部科学省)の既存情報に基づき、多様な還元・貢献活動(開発教育プログラムの実施や教科教育、学級運営、授業外活動、キャリア指導、外国人児童生徒への対応、帰国隊員ネットワーク、ボランティア活動など)を事例研究でできるように配慮

※1: © I教諭(ホンジュラス:小学校教諭)、2: © M教諭(ブータン:体育教師)



**調査研究①：
JOCV経験教員の還元・貢献を支援・促進する
教育委員会・自治体の取組み
（アンケート調査報告暫定版）**

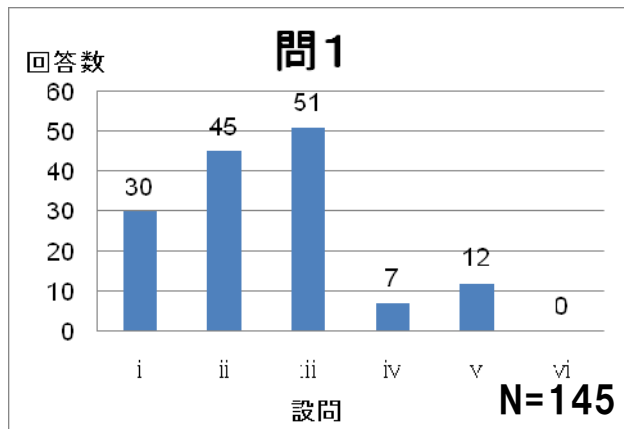
**47全国都道府県＋17政令指定都市
回答組織数：64組織**



教育委員会・自治体による還元・貢献の支援・促進事例 [アンケート調査報告暫定版(抜粋)]

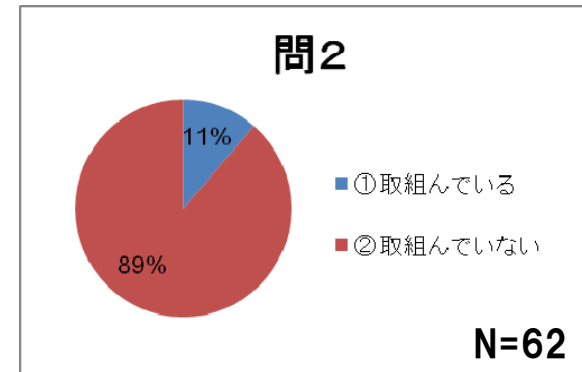
【帰国後の還元・貢献】

■問1: 青年海外協力隊及び日系社会青年ボランティア(以下、「青年海外協力隊等」)現職教員特別参加制度参加希望教員のとりまとめに関して、貴教育委員会としての何らかの意義を感じておられますか。(複数選択可)

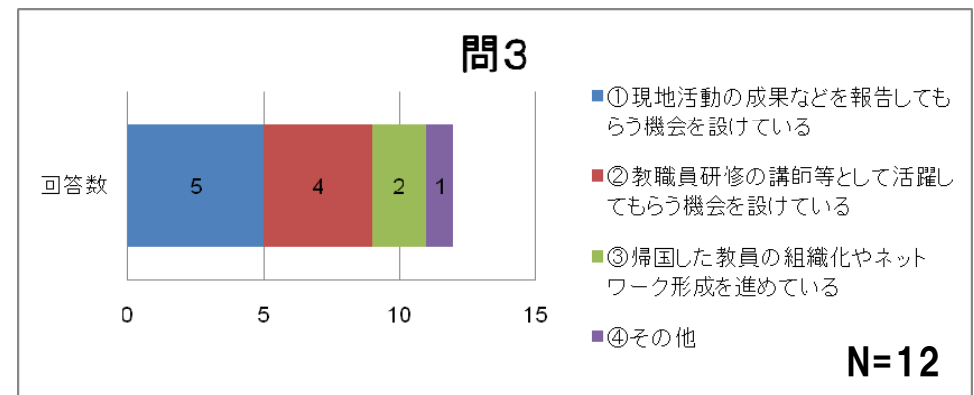


	回答数
i.あくまで教員個人の意志の尊重	30
ii.開発途上国への協力、国際貢献のため	45
iii.教員の資質向上のため	51
iv.語学が堪能な人材の育成のため	7
v.在留外国人児童・生徒に対応できる人材の育成のため	12
vi.その他	0

■問2: 貴教育委員会が中心となって、青年海外協力隊等を経験した教員が、帰国後にその経験や成果を児童生徒、他の教職員、その他の方々に還元するような機会作りに組織的に取り組まれていますか。



■問3: 取り組んでいる場合、それはどのようなものですか。(複数選択可)





教育委員会・自治体による還元・貢献の支援・促進事例 [アンケート調査報告暫定版(抜粋)]

【帰国後の還元・貢献】

■問4:上記3. の回答の内容を具体的に記してください。

■資源ネットワークの構築と協同実施

(情報・機会・人的資源の共有、協同実施)

- ・人材バンク(愛媛県)
- ・児童生徒向け国際協力イベント(岡山県・広島県)

■次世代派遣教員の発掘と支援

- ・帰国報告会(秋田市・神戸市)

■教員の資質・能力の向上

- ・教員研修(青森県、さいたま市、京都市、愛媛県、徳島県、岡山県)

■人事優遇措置

(優先的教員採用施策、管理職登用ルートなど)

- ・静岡県・神戸市

■関連施策とのリンク


- ・岐阜県・京都市・岡山県・広島県

■実践と理論の反復

(高等教育機関における学術研究、研究会組織の発足)

■その他

- ・JICAとの人事交流(埼玉県)
- ・派遣中の給与をJICAからの補填額以下に抑えて派遣枠を廃した例(北海道)



都道府県・政令指定都市
教育委員会

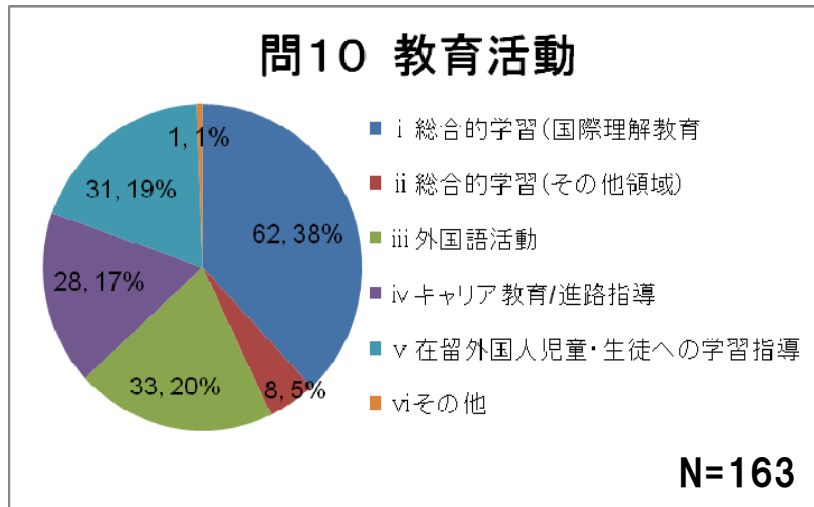
全国動向調査
(調査票調査)



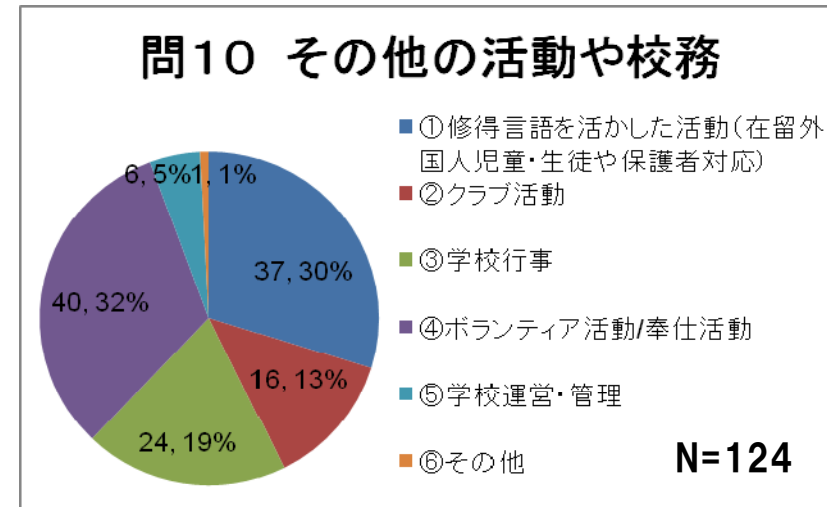
教育委員会・自治体による還元・貢献の支援・促進事例 [アンケート調査報告暫定版(抜粋)]

【帰国後の還元・貢献】

■問10: 青年海外協力隊等を経験した教員は、日本の学校教育のどの分野において経験の還元・貢献が期待できると考えていますか。(複数選択可)



選択肢	回答数
総合的学習(国際理解教育)	62
外国語活動	33
在留外国人児童・生徒への学習指導	31
キャリア教育/進路指導	28
総合的学習(その他領域)	8
その他	1
合計	163



選択肢	回答数
① 修得言語を活かした活動(在留外国人児童・生徒や保護者対応)	37
② クラブ活動	16
③ 学校行事	24
④ ボランティア活動/奉仕活動	40
⑤ 学校運営・管理	6
⑥ その他	1
合計	124

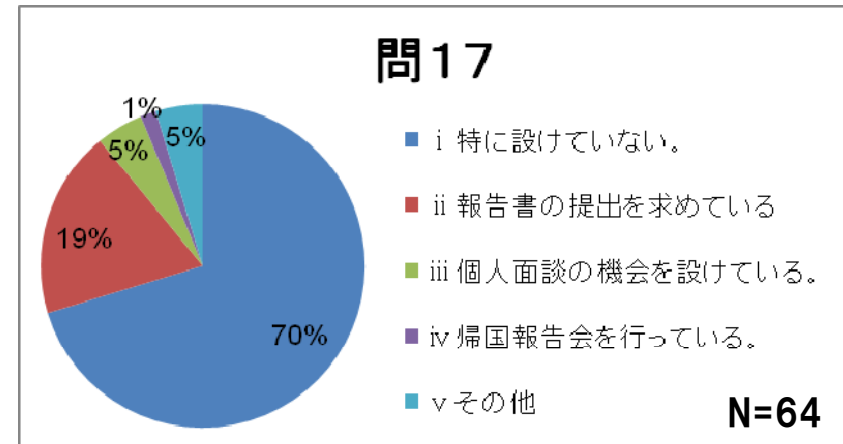
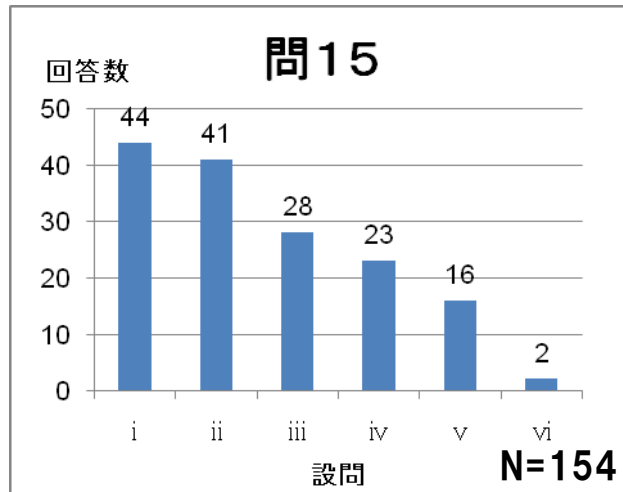


教育委員会・自治体による還元・貢献の支援・促進事例 [アンケート調査報告暫定版(抜粋)]

【能力向上・評価・人事】

■問15: 現職教員が国際協力を実践することにより、教員自身の能力開発と共に、日本の教育現場に与える効果として、次の5つの効果が想定されていますが、特にどの効果に期待していますか。(複数選択可)

■問17: 青年海外協力隊等に教員を派遣した場合、帰国後に貴教育委員会がその成果を把握するための機会を設けていますか。(複数選択可)



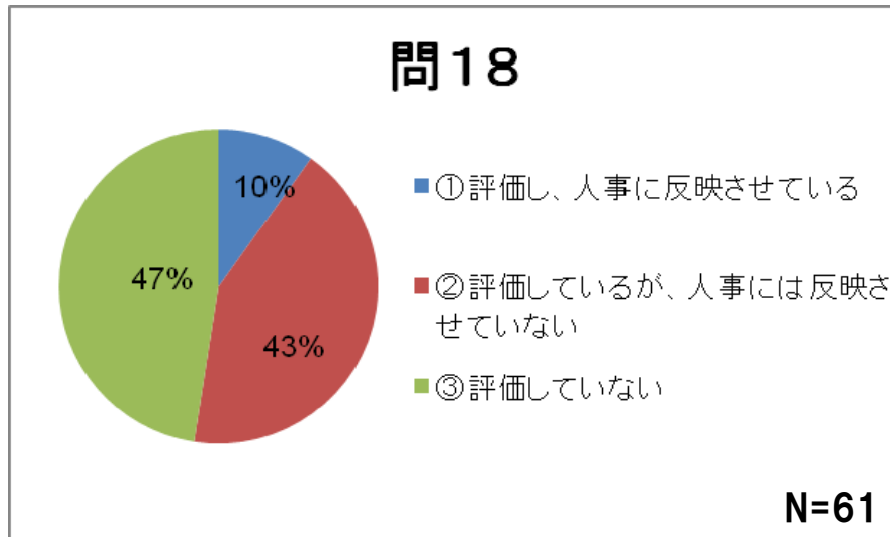
選択肢	回答数
i 異文化理解の向上による「内なる国際化」の実現	44
ii 日本の教育の再認識による他国の教育経験に照らした日本の教育の質向上	41
iii コミュニケーション能力の向上による分かりやすい授業の実施	28
iv 問題への対処能力の向上による学校運営等における諸問題への適切な対応	23
v 概念化能力の向上による問題解決的な学習活動の実践	16
vi 特に期待していない	2



教育委員会・自治体による還元・貢献の支援・促進事例 [アンケート調査報告暫定版(抜粋)]

【能力向上・評価・人事】

■問18:派遣された教員の現地での活動の成果を、貴教育委員会において評価し、それを帰国後の人事に反映させていますか。

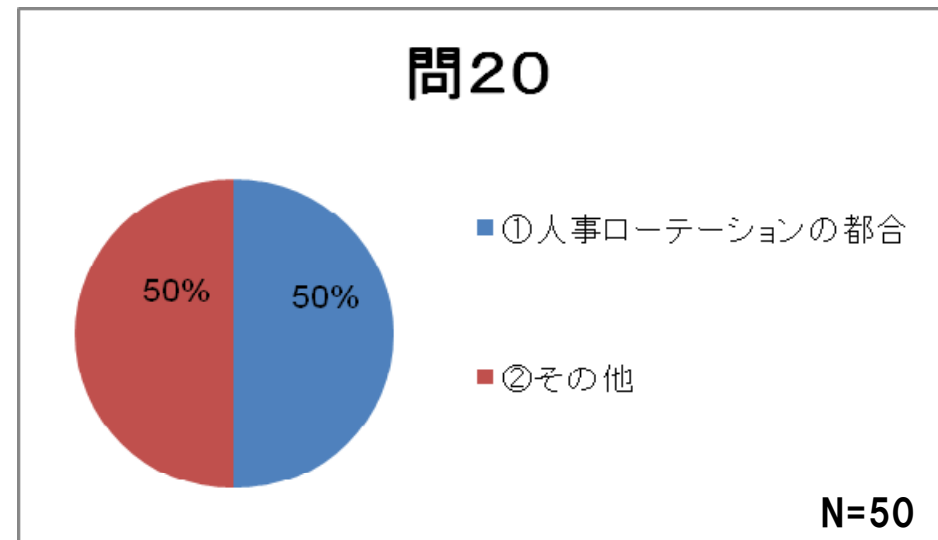


選択肢	回答数
①評価し、人事に反映させている	6
②評価しているが、人事には反映させていない	26
③評価していない	29
合計	61

■問19:人事に反映されている場合、具体的にはどのようなものですか。(複数選択可)

選択肢	回答数
①指導主事への配置	0
②研究校/推進校/付属校などへの配置 (国際理解教育、外国人児童対応、スーパーサイエンススクール等)	3
③研修会等の講師として起用	4
④その他	3
合計	10

■問20:人事に反映していない場合、その理由を記してください。

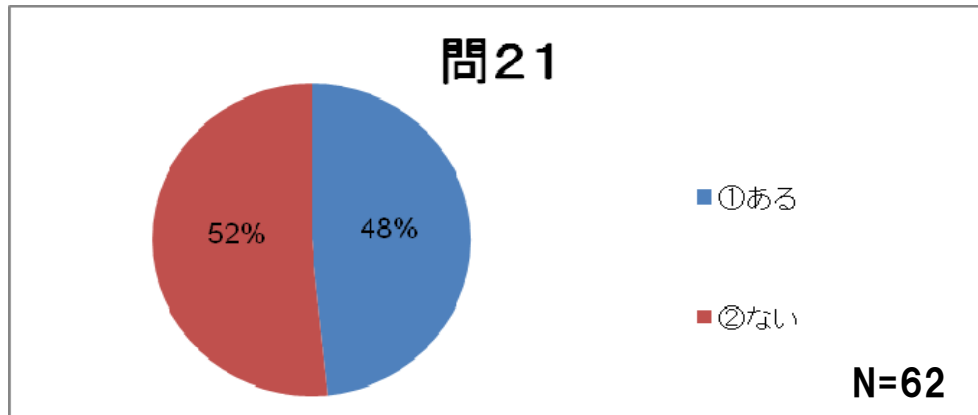




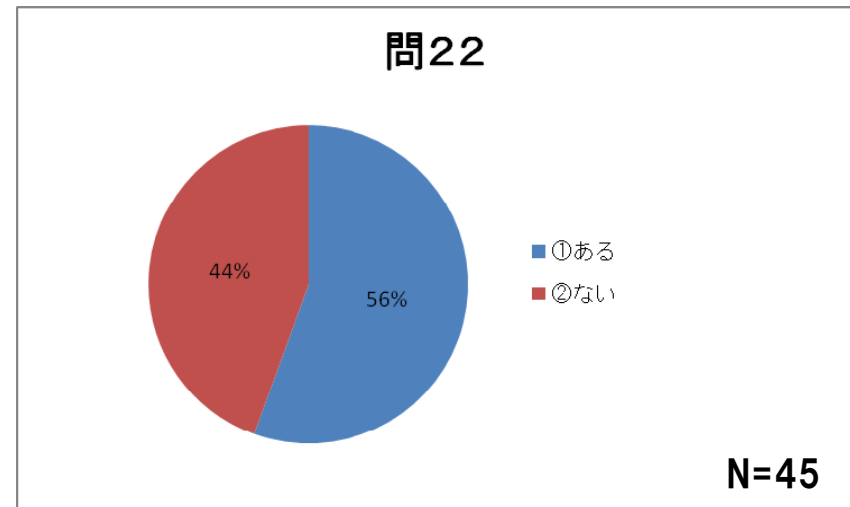
教育委員会・自治体による還元・貢献の支援・促進事例 [アンケート調査報告暫定版(抜粋)]

【その他】

■問21: 在外教育施設やREXプログラム(外国教育施設日本語指導教員派遣事業)への派遣教員の方々の帰国組織はありますか。



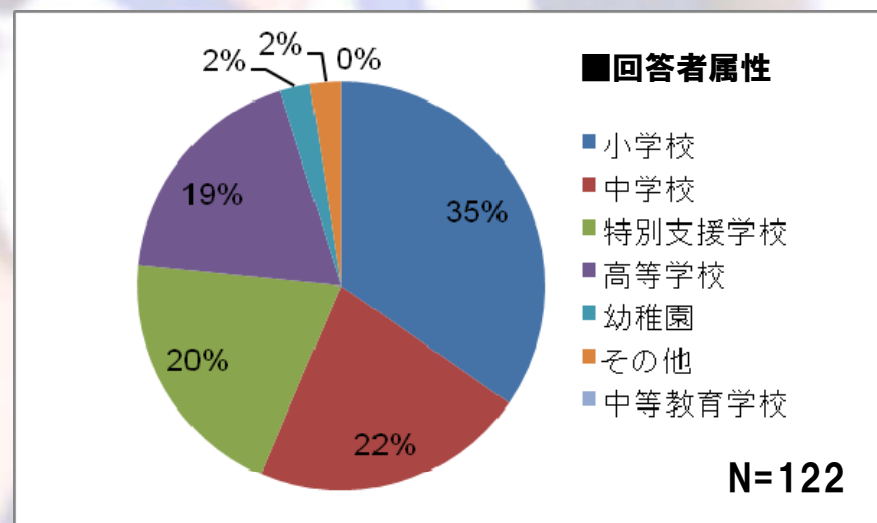
■問22: その組織による還元・貢献の活動はありますか。あるとお答えの場合、具体例を記してください。



【組織による還元・貢献活動の具体例】

- ・派遣先での活動の報告会や国際理解教育の研修会(群馬県)。
- ・教育委員会が中心となった組織ではなく、帰国者が自主的に組織し、活動している(愛知県)。
- ・帰国教員による定期的な研修会、派遣志望者研修会、HPによる派遣教員の情報発信支援、研究紀要の作成(兵庫県)。
- ・在外教育施設派遣から帰国した教員が活動経験や海外事情等を県内教育関係者に報告する国際理解教育研究会を開催している(鳥取県)。
- ・「高知県国際理解教育研究会」という組織を作り、年1回、国際理解教育に関する意見交換や学習会を行っている(高知県)

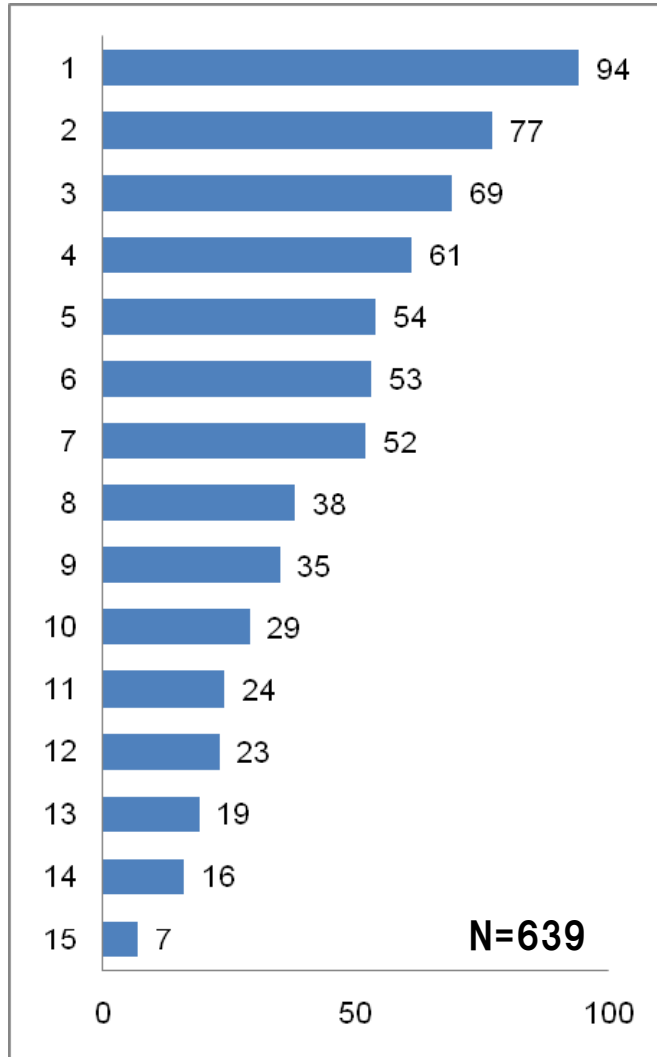
調査研究②： JOCV経験教員の還元・貢献活動の動向 （アンケート調査報告暫定版）





JOCV経験教員の還元・貢献活動の動向 [アンケート調査報告暫定版(抜粋)]

【参加動機】



■問2: 青年海外協力隊に参加した動機は何ですか。 (複数回答可)

- 1: 物の見方を変え、視野を広めるため
- 2: 国際協力への参加
- 3: 国際理解を深めるため
- 4: 教員として総合能力を向上(指導力、コミュニケーション能力など)
- 5: 人生観、価値観、世界観を変えるため
- 6: 広い目で学校教育を考えられるようになるため
- 7: 日本の学校の長所や短所を、客観的に認識できるようになるため

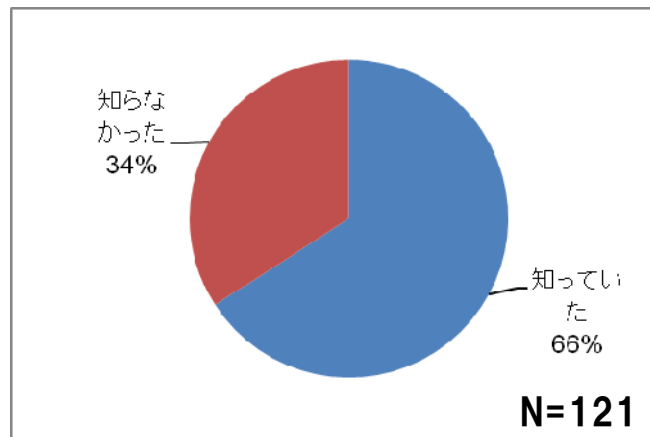
- 8: 人と知り合い人間関係を拡大させるため
- 9: 児童生徒を多角的かつ柔軟に見られるようになるため
- 10: 教育現場から離れた環境に身をおくため
- 11: 適応力や忍耐力などを向上させるため
- 12: ほかの業種・分野の人とのつながりを作るため
- 13: 教職に対するモチベーションを上げるため
- 14: 問題解決能力の向上を期待して
- 15: 所属先を越えた教員同士のネットワークの構築のため



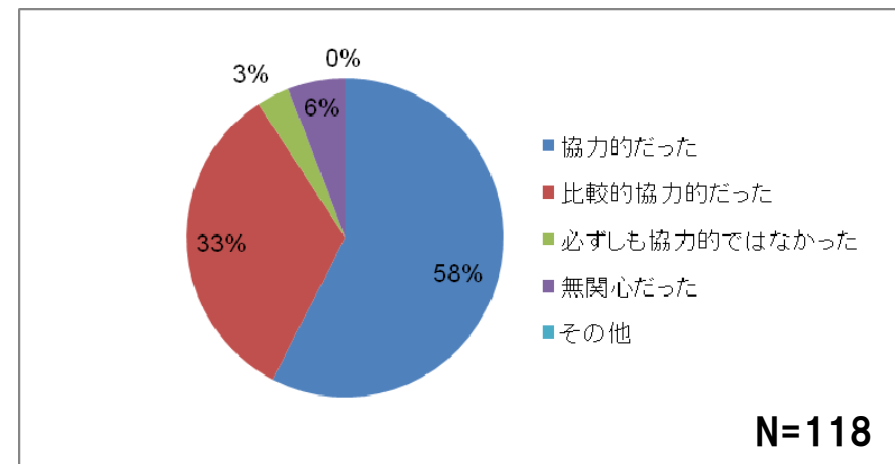
JOCV経験教員の還元・貢献活動の動向 [アンケート調査報告暫定版(抜粋)]

【制度認識と対応】

■問3:参加の希望を申し出た時、学校長は現職教員特別参加制度を知っていましたか。



■問4-i:参加に当たり、職場の反応はどうでしたか。

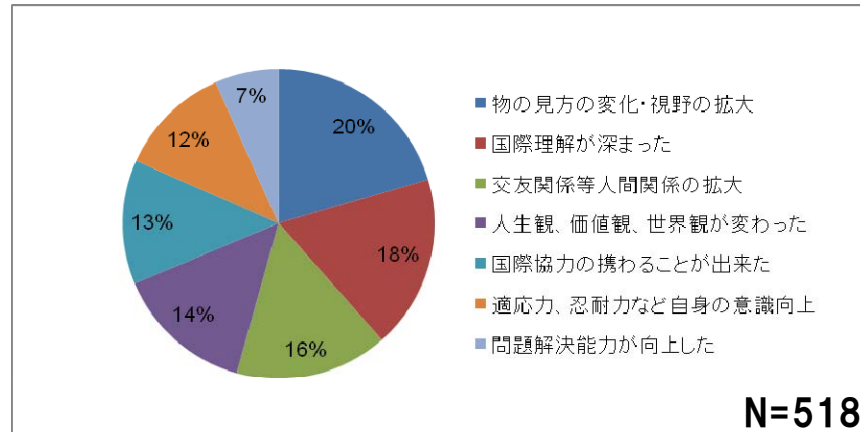




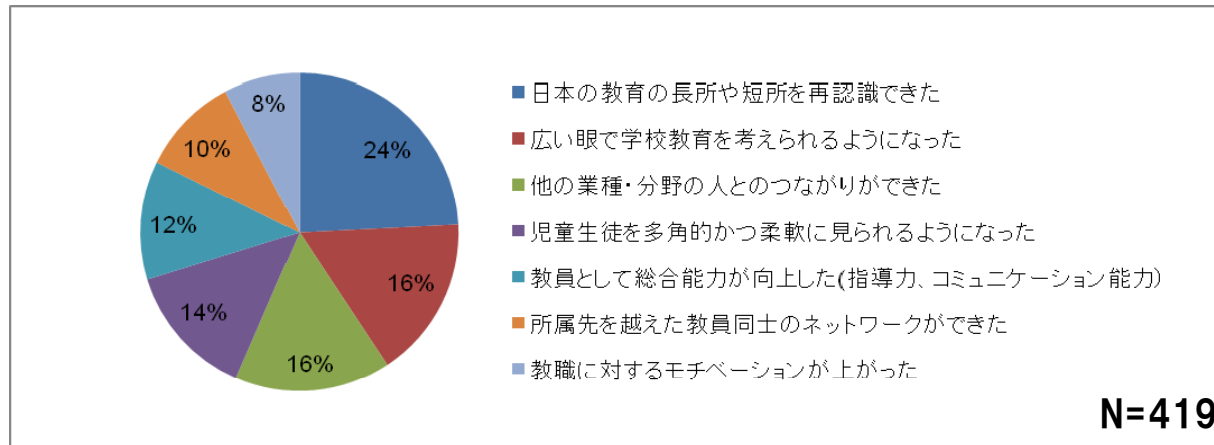
JOCV経験教員の還元・貢献活動の動向 [アンケート調査報告暫定版(抜粋)]

【参加教員自身の変化】

■問6-ii:ご自身にとってよかったといえる点は何ですか。(複数回答可)



■問6-iii:教育現場にとってよかったといえる点は何ですか。(複数回答可)

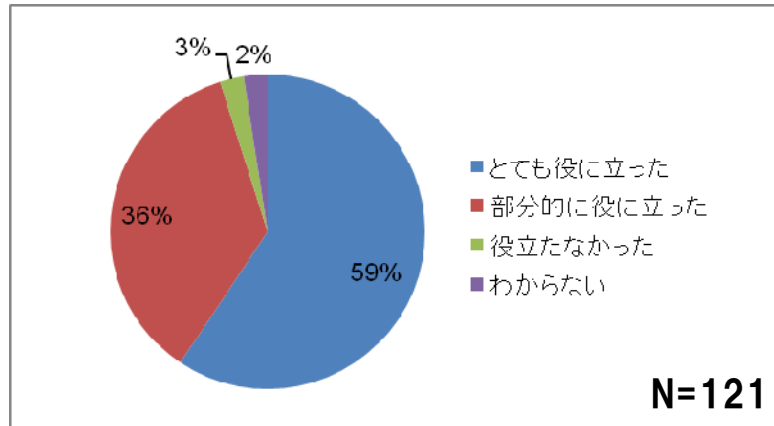




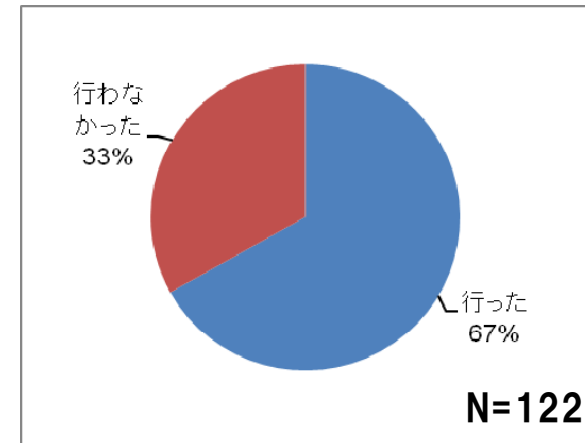
JOCV経験教員の還元・貢献活動の動向 [アンケート調査報告暫定版(抜粋)]

【派遣活動中の還元・貢献効果】

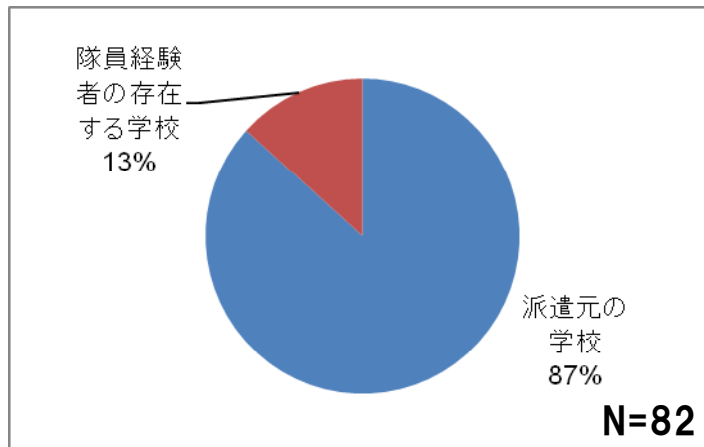
■問12-i: 現地での活動に日本国内の教育現場での経験は役立ちましたか。



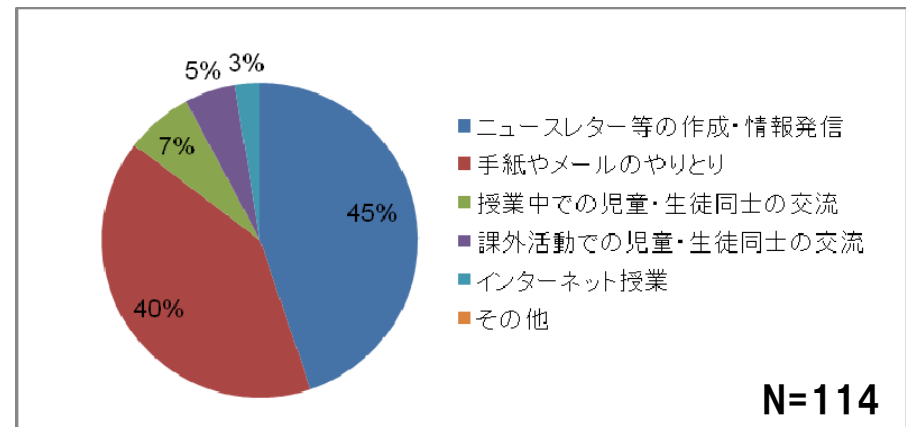
■問13-i: 現地での活動中、派遣元の学校を含めて日本国内の学校等と交流を行いましたか。



■問13-ii: 「行った」とお答えの場合、どこと交流をしましたか。(複数回答可)



■問13-iii: 「行った」とお答えの場合、具体的にはどのような活動を実施しましたか。(複数回答可)

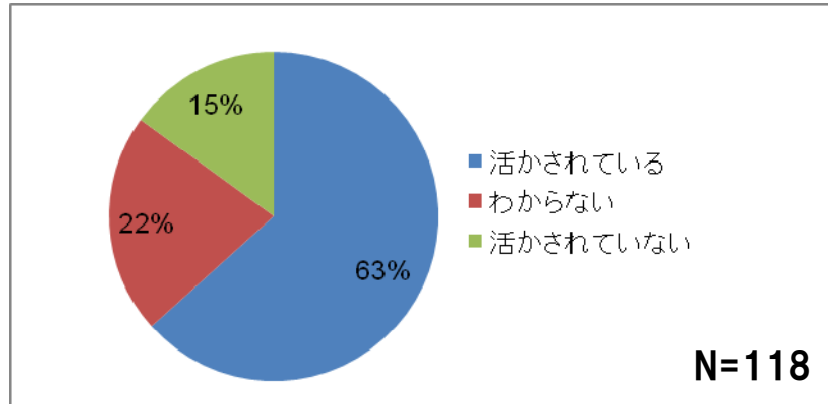




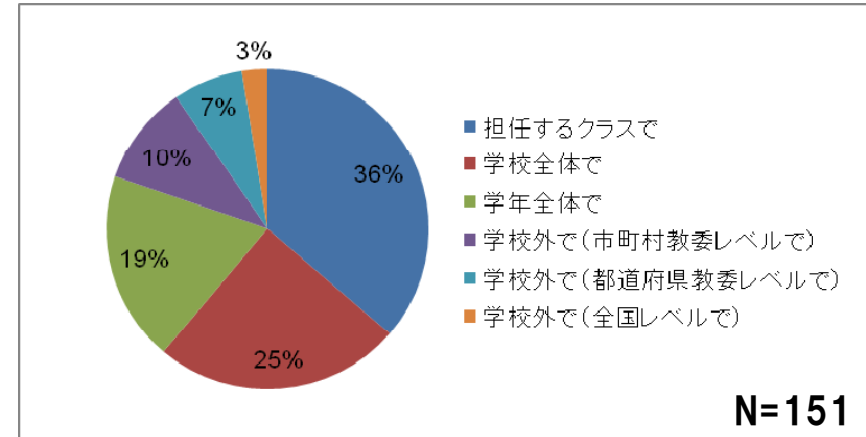
JOCV経験教員の還元・貢献活動の動向 [アンケート調査報告暫定版(抜粋)]

【帰国後の還元・貢献効果：経験が活かされている・いない/活かされている場所】

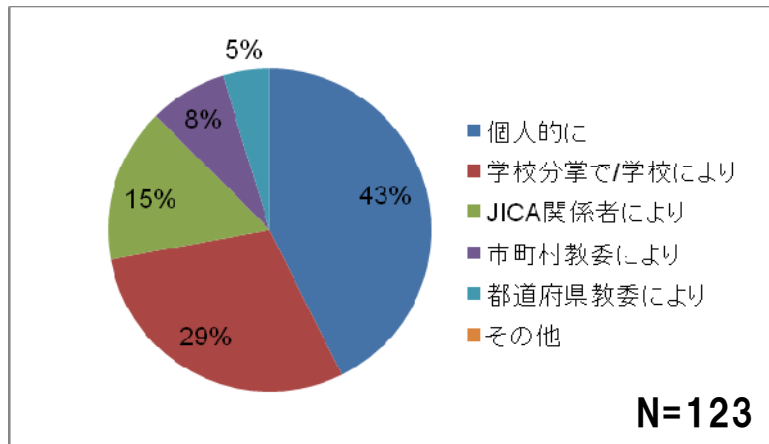
■問16-i: 帰国後、学校教育の現場で派遣中の経験が活かされていますか。



■問16-ii: 「活かされている」とお答えの場合、それはどこで活かされていますか。(複数選択可)



■問16-iv: 16-iii.の機会はどのようなアクターにより作られましたか。(複数選択可)

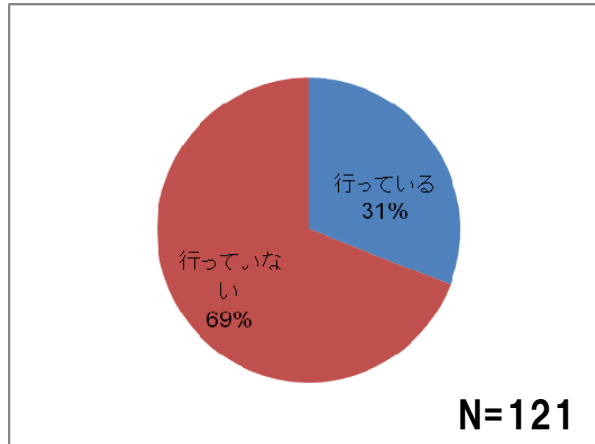




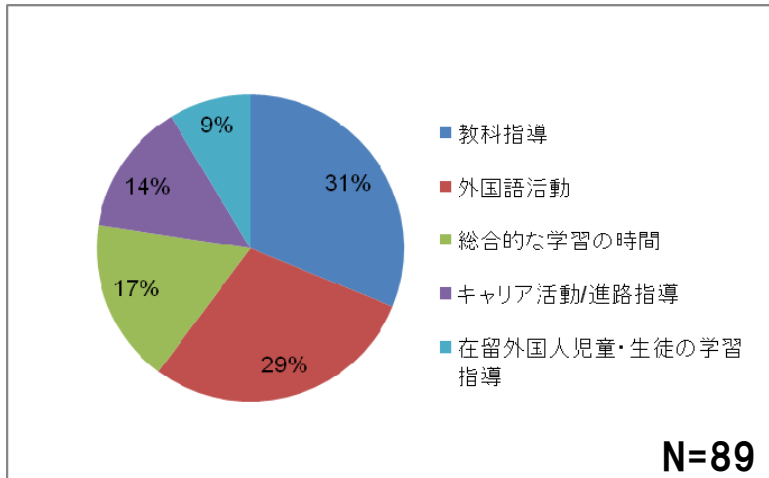
JOCV経験教員の還元・貢献活動の動向 [アンケート調査報告暫定版(抜粋)]

【帰国後の還元・貢献効果:学校内(授業)】

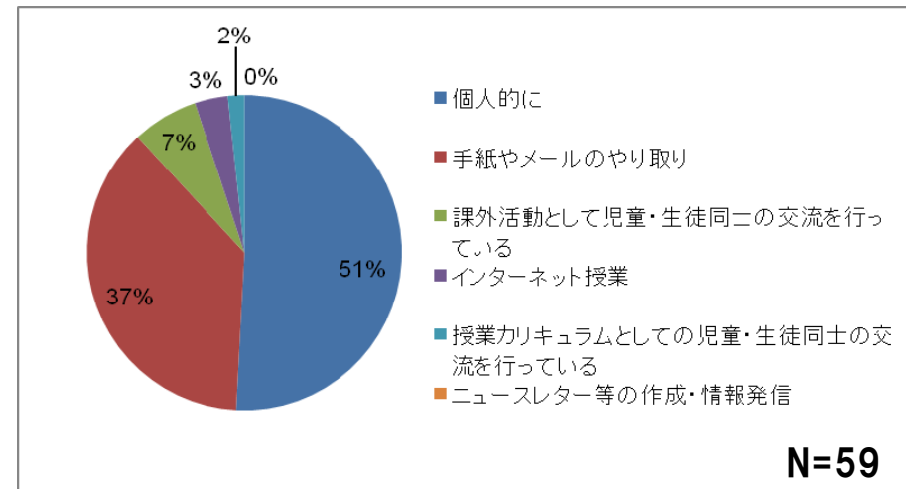
■問18-i:帰国後も派遣国の学校等と交流を行っていますか。



■問20-i:国際理解教育以外に、帰国後新たに力を入れ始めたものはありますか。(複数回答可)



■問18-ii:「行っている」とお答えの場合、具体的にはどのような活動を行っていますか。(複数回答可)



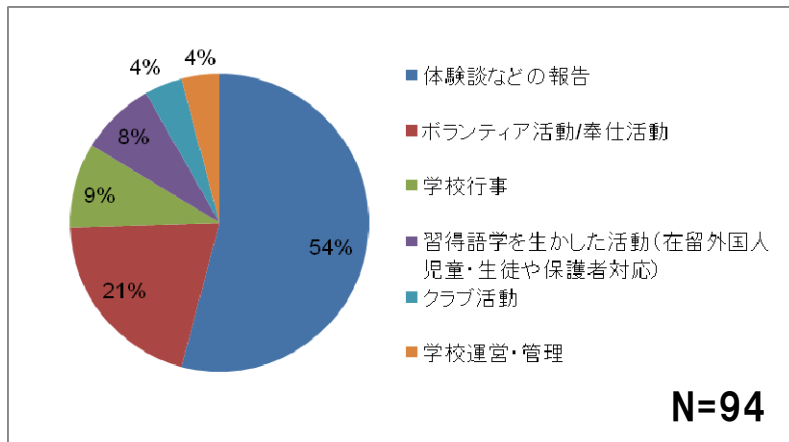


JOCV経験教員の還元・貢献活動の動向 [アンケート調査報告暫定版(抜粋)]

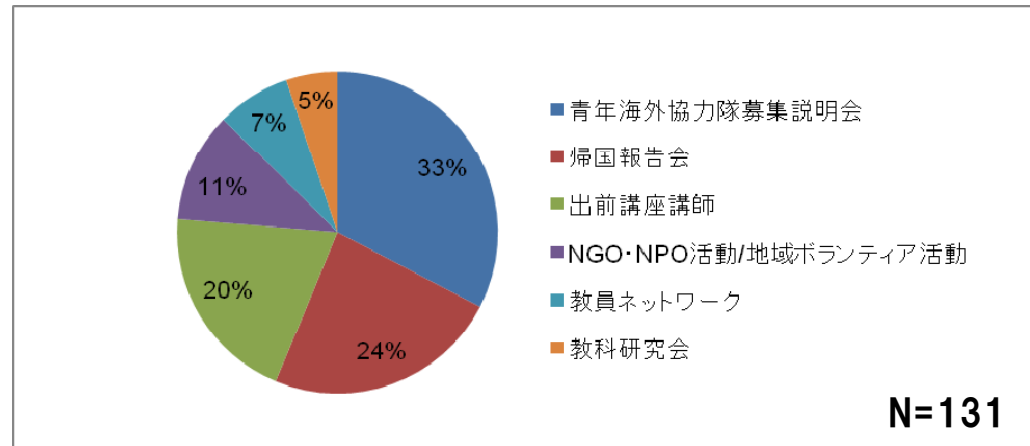
【帰国後の還元・貢献効果:学校内(授業以外)】

【帰国後の還元・貢献効果:学校外】

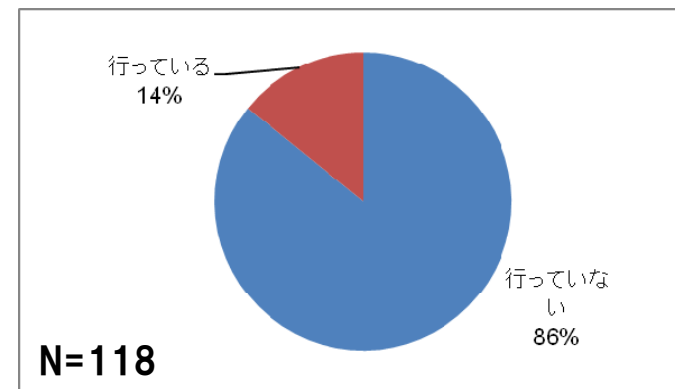
■問21-i:授業以外で、学校内で協力隊の経験を活かして取り組んでいる活動がありますか。(複数回答可)



■問22-i:学校外での協力隊の経験を活かして取り組んでいる活動がありますか。(複数回答可)



■問23-i:帰国後、派遣先で得た知見を整理、蓄積する取組みを行っていますか。(研究会の設置、大学院進学、論文や書籍の執筆など)

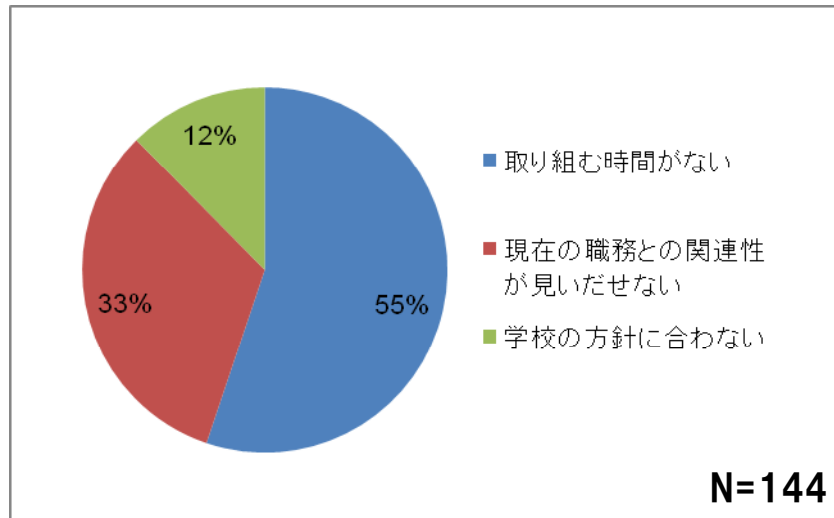




JOCV経験教員の還元・貢献活動の動向 [アンケート調査報告暫定版(抜粋)]

【帰国後の還元・貢献効果:その他】

■問26: 帰国後、日本の教育現場への還元・貢献の活動がなかなか取組めていない方は、その要因は何ですか。(複数選択可)



■還元・貢献活動の阻害要因(学校長アンケート調査に基づく)

■問5: (還元・貢献活動を)行っていないとお答えの場合、その理由は何ですか?(学校長認識)

表: JOCV帰国現職教員が還元・貢献活動をできていない理由(学校長による認識)

- 時間的制約(6)
- 国際理解教育に関する授業をしていないので(1)
- 特別支援教育(知的障害教育)児童生徒の実態から実施が難しい(5)
- 活用にむけた学校側の準備体制・機会が整っていない(5)
- 組織的な対応ではなく、個人的な対応に任せている(2)
- 情報収集・交換の場がない(1)



**調査研究③：
JOCV経験教員の還元・貢献事例
（インタビュー調査報告暫定版）**



■経験教員:M教諭(神奈川県横須賀市)

■派遣国:ブータン(H12派遣)

■職種:小学校教諭

■還元活動キーワード:派遣中の情報発信・コミュニケーション、派遣後の国際理解教育/開発教育や文化祭、教科教育(保健)、人権教育

■教育経験キーワード:コミュニケーションの質的变化(表現を見ながらのコミュニケーション)、「常識」概念の変化、「豊かさ」概念の変化

■備考:制度以前に参加

【派遣中】



写真:派遣中に派遣前学校に送付したブータン壁新聞

【派遣後】



写真:「地球市民入門」の授業での生徒の調べ学習の発表(フェアトレード・教育など)



■経験教員:I教諭(静岡県沼津市)

■派遣国:ホンジュラス(H14派遣)

■職種:小学校教諭

■還元活動キーワード:在留外国人児童生徒対応、国際理解教育/開発教育、西語・英語を活用した週末学習支援、ペルー大使間連携の算数教材開発

■教育経験キーワード:コミュニケーションの質的变化、「常識」概念の変化、安全・危機管理能力の向上、マイノリティの経験を生かした指導

【派遣後】



写真:TANOSHIKAIメンバーとの連携による西語・英語を活用した週末学習支援(原地区センター)



写真:特別支援学校にて算数の授業実施風景。ペルー教育省のメンバーとも一緒につくりあげた地方の算数基礎学力向上のためのプロジェクト



【派遣後】



写真: 小学校への出前出張講座
(国際理解教育/開発教育)



写真: えんぴつの寄付にむけたPTAを
巻き込んだ回収活動

■経験教員:N教諭(茨城県守谷市)

■派遣国:ドミニカ(H16派遣)

■職種:小学校教諭

■還元活動キーワード:生徒指導、キャリア教育、学校行事(バザー)、寄付活動、後輩教員(隊員派遣)との連携による国際理解教育/開発教育

■教育経験キーワード:経験に基づく言葉の説得力、広い視野と動じない態度、児童生徒の個別指導



■経験教員:K教諭(埼玉県さいたま市)

■派遣国:ウガンダ(H19派遣)

■職種:小学校教諭

■還元活動キーワード:派遣中の参加型学年通信
(常盤小学校との連携)

※常盤小学校の教員による国際理解教育/開発教育、起業家教育、PTA・地域住民を巻き込んだバザーの開催とフェアトレード

■教育経験キーワード:「異文化理解」概念の変化、日本の教育力、派遣前・派遣中の還元の可能性、近隣小学校との連携による教育実践

【派遣後】



写真:クラス通信におけるウガンダ関連の生徒会活動の紹介



写真:B教諭と同僚教諭(常盤小学校)との連携によるウガンダとの交流プロジェクトの展開



【派遣後】



写真:ボリビアの小学校への折り鶴のプレゼントとボリビアの子どもたち



写真:ボリビアの小学校とのインターネット交流と習字の紹介

■経験教員:S教諭(神奈川県平塚市)

■派遣国:ベトナム(H18派遣)

■職種:小学校教諭

■還元活動キーワード:国際理解教育/開発教育、総合的学習の時間、学級運営、経験を応用したボリビアとの連携プログラム、教育委員会との連携した国際教育プログラム

■教育経験キーワード:教育観の変化(伝える・教えるから繋がる・引き出すへ)、価値観の尊重、直接指導から間接指導へ、「言葉の力」の再認識、日々の教育活動への織り込み、「表現できる子」を育てる、子ども同士の対話能力



■経験教員:○教諭(宮城県仙台市)

■派遣国:フィリピン

■職種:小学校教諭

■還元活動キーワード:総合的学習の時間、外国語教育、国際理解教育/開発教育、経験を生かした紙芝居づくりと朗読活動、外国語教育

■教育経験キーワード:日本の教育教材の質の高さ、教材開発の質的改善、教育実践の質的改善、同僚との連携による教育実践

【派遣後】



写真:国際理解のための学内展示ブース



写真:経験を生かした紙芝居づくりと朗読活動



【派遣後】

■経験教員:T教諭(宮城県仙台市)

■派遣国:ジンバブエ

■職種:小学校教諭

■還元活動キーワード:水の大切さを伝える環境教育実践、募金活動、生徒指導、学級運営

■教育経験キーワード:派遣隊員どうしの学び合い、万国共通の子どもたちの笑顔、日本の常識・世界の非常識、コミュニケーション手段としての英語、安全管理・危機管理能力の向上、チャレンジ精神、現実と理想を教える役割(教育者果たす役割の認識変化)、経験を通じた外国籍児童生徒への配慮、子ども達との信頼の構築

■備考:派遣後に教員へ



写真:派遣国の写真を活用した「水の大切さ」を伝える環境教育教材



【派遣後】



写真:開発教育協会(DEAR)と派遣前隊員(タンザニア派遣)との連携による開発教育プログラム(貿易ゲーム)の実施



写真:帰国教員ネットワーク(関東教育支援ネットワーク)の形成と帰国後の実践事例の共有と議論

■経験教員:Y教諭(東京都町田市)

■派遣国:タンザニア

■職種:理数科教師

■還元活動キーワード:派遣中隊員との学び合い(タンザニア教育研究会)、活動情報の発信、米平和部隊との連携、国際理解教育/開発教育、総合的学習の時間、道徳教育との関連性、ICT活用の国際教育、関東教育支援ネットワーク

■教育経験キーワード:行動力の向上、地球人としての世界観の醸成、ICT活用がもたらす国際理解、経験隊員のネットワーク構築と教育実践研究

■備考:制度以前の参加



【派遣後】

■経験教員:T教諭(神奈川県逗子市)

■派遣国:ジンバブエ(H13派遣)

■職種:養護教諭

■還元活動キーワード:食育、給食指導、保護者参加型の授業実践、総合的学習の時間、学級間の交換授業

■教育経験キーワード:児童生徒の個々に向き合う指導の重要性、一日一日の時間の大切さ、日々の教育活動に対する振り返りの重要性

■備考:帰国後教員に

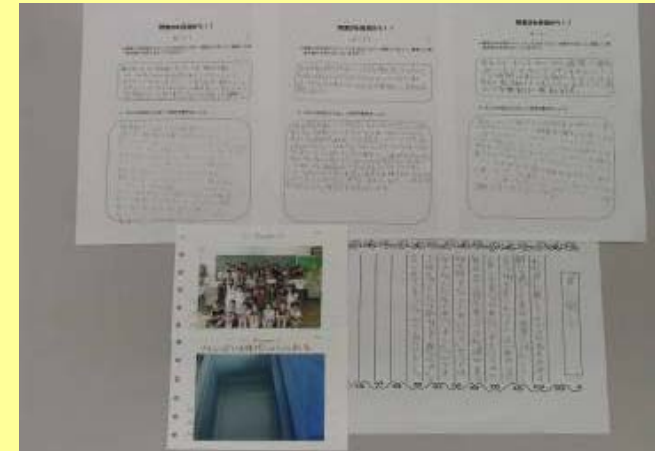


写真:総合的学習の時間における「食」に関する作文
【帰国後の還元活動】



【派遣中】



写真:クロスロード特集「日本の生徒たちへの手紙」
において、ストリート・チルドレンとの出会いに関する記事の発信

■経験教員:H教諭(大阪府大東市)

■派遣国:ルーマニア(H15派遣)

■職種:ソーシャルワーカー

■還元活動キーワード:国際理解教育/開発教育、
保健所とのボランティア活動(大東市たばこゼロプロジェクト)、
社会教育活動(ルーマニアからのほほえみ)、
日常会話、総合的学習の時間

■教育経験キーワード:仲間意識の醸成、日本の教育制度の素晴らしさ、
経験に基づく言葉の重さ、生きる力、「あたりまえ」の概念、
あいさつと日常会話の重要性、学び合い、
総合力を持った教員の育成、
地域連携のプロデュース

【派遣後】



写真:深谷小学校の全校平和集会:
「ルーマニアのこどもたちにかかわって」での経験報告



- 経験教員:M教頭(兵庫県大東市)
- 派遣国:ホンジュラス(S63派遣)
- 職種:技術科教師

■還元活動キーワード:教科教育(技術)、ふるさと学習、自然体験を通じた感動体験、ICTを活用した国際理解・開発教育、「幸せ」に関する道徳教育、教育指導力向上研究会、教育支援ネットワーク、学校運営、JOCVクリスマスカードから始めるJOCV派遣教員と地元学校との交流プログラム

■教育経験キーワード:ふるさと教育、教育の国際化、「豊かさ」の概念、生きる力、日本の子どもが世界の子ども繋がる意味、感動体験、自分で気づく力を養う

- 備考:制度以前参加

【派遣後】



写真: 兎塚小学校6年総合的な学習の時間「ひとりひとり世界の友だち」での、ホンジュラス国とのテレビ会議交流



写真: 帰国教員ネットワーク(兵庫OV教員研究会)の創設と帰国後の実践事例の共有と議論



JOCV経験教員の還元・貢献事例(12)
K教諭
 (ベトナム・SE・持続発展教育・人権教育)

- **経験教員:** K教諭(大阪府豊中市)
- **派遣国:** ベトナム
- **職種:** SE

■ **還元活動キーワード:** 派遣中における日本の高校との連携による国際理解教育/開発教育プログラム (Meet the GLOBEプロジェクト)、総合的学習の時間、人権教育(バリアフリー、私たちの幸せ)、NGO連携の教材支援活動、持続発展教育

■ **教育経験キーワード:** 人のつながりの大切さ、人権教育・国際教育を通じた価値教育、既存の教育実践との関連づけ(つながり・かかわり・ふかまり・ひろがり)、「幸せ」の概念

■ **備考:** 帰国後教員へ

【派遣後】

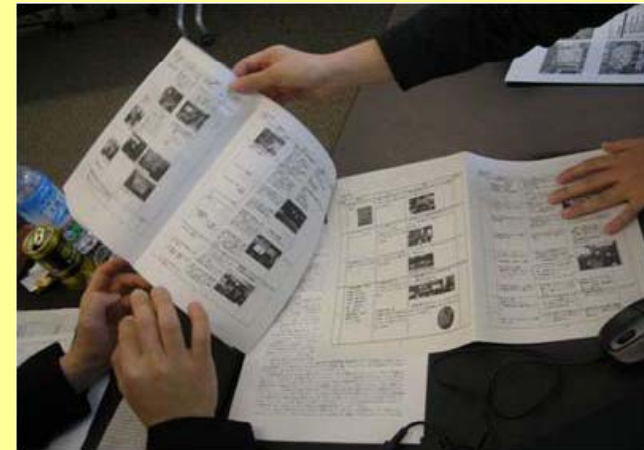


写真: 豊中市立上野小学校の国際教育「国際社会に通用する学力を求めて広い視野と主体的行動力の育成」



写真: 空き缶を売ったお金でカンボジアへ絵本を送る活動(豊中市立上野小学校)



【派遣後】



写真: 小学校5-6年対象の外国語活動の実践



写真: 北京師範大学実験小学校との組織連携による児童生徒の交流活動

- 経験教員:S教諭(新潟県)
- 派遣国:ドミニカ(H18派遣)
- 職種:小学校教諭

■還元活動キーワード:外国語教育、国際理解教育/開発教育、北京師範大学実験小学校との連携プログラム、総合的学習の時間

■教育経験キーワード:コミュニケーション手段としての英語、日本語教育の重要性、日本文化の尊重、世界に対する好奇心の醸成



JOCV経験教員の還元・貢献活動の可能性 —インタビュー調査を通して(暫定版)

【派遣前】

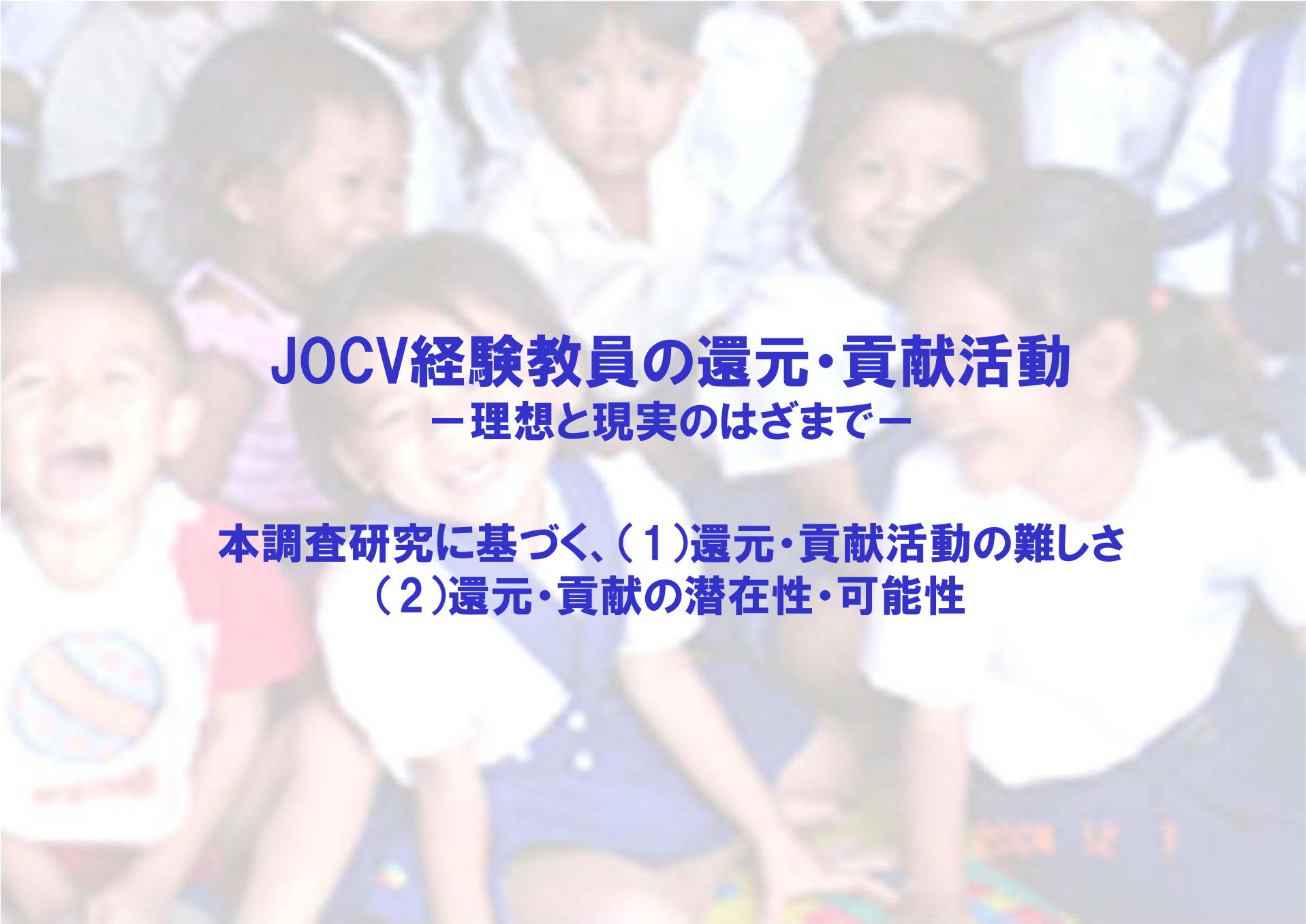
- 児童生徒との派遣前心境の共有
- 派遣前における派遣国に関連する開発教育・国際理解教育プログラムの展開、など

【派遣中】

- 所属学校・周辺学校・自治体への活動報告を通じた**情報発信**
- 所属学校・周辺学校の児童生徒との手紙のやり取りや**継続的コミュニケーション(ICT利用)**
- 所属学校・周辺学校との連携による開発教育・国際理解**教育プログラムの実施**
- 地域・PTAを巻き込んだ所属学校・周辺学校との連携による**地域実践プログラムの展開**(文化祭やバザー、支援物資の回収と送付)、など

【派遣後】

- 授業における活動**
(教科教育への織り込み、総合的学習の時間における学年教員・外部組織との連携によるプログラム実践)、など
- 授業外における活動**
(外国人児童生徒対応、文化祭や生徒活動の一環、学級運営、生徒指導、キャリア教育、児童会プログラム)、など
- 学校外における活動**
(PTAや保健所、社会教育施設、他学校との連携による教育プログラムの展開)、など



JOCV経験教員の還元・貢献活動

—理想と現実のはざままで—

本調査研究に基づく、(1)還元・貢献活動の難しさ
(2)還元・貢献の潜在性・可能性

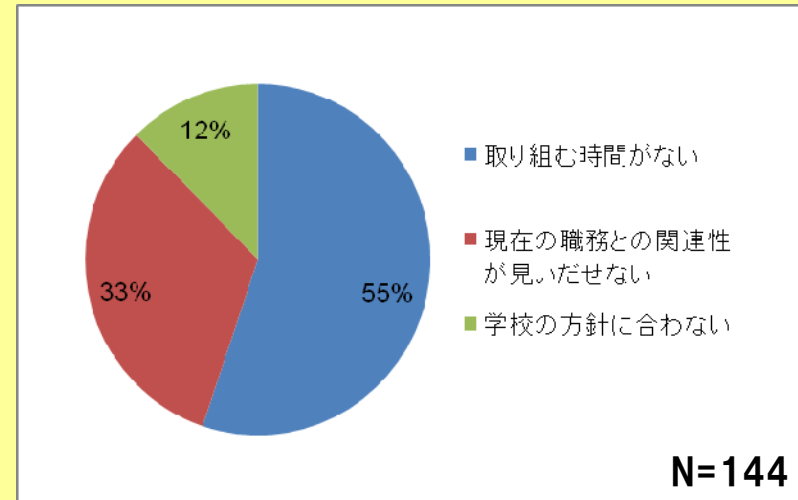
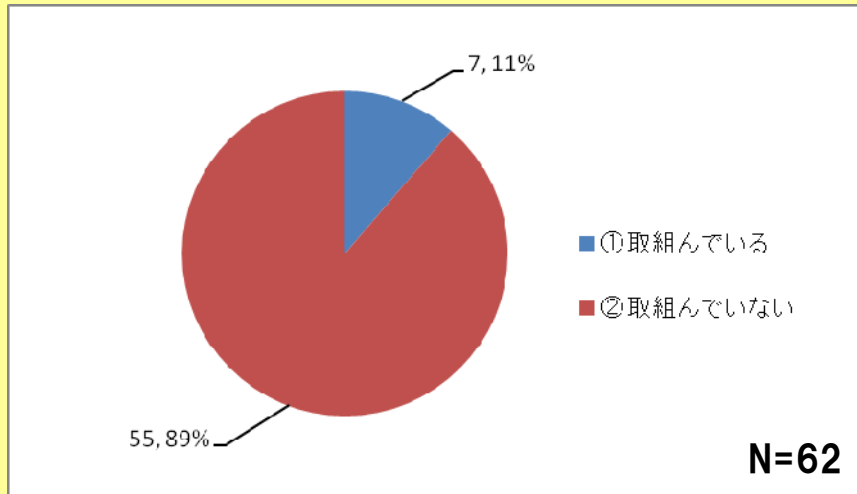


JOCV経験教員の還元・貢献活動

☹️還元・貢献活動の難しさ(暫定版)

■JOCV帰国現職教員が還元・貢献活動ができる機会づくり
(教育委員会・自治体に対するアンケート調査－問2より)

■JOCV帰国現職教員が還元・貢献活動をできていない理由
(JOCV経験教員に対するアンケート調査－問26より)



※1

※1: © |教諭(ホンジュラス:小学校教諭)

■表: JOCV帰国現職教員が還元・貢献活動をできていない理由
(所属学校長に対するアンケート調査－問5より)

- 時間的制約(6)
- 国際理解教育に関する授業をしていないので(1)
- 特別支援教育(知的障害教育)児童生徒の実態から実施が難しい(5)
- 活用にむけた学校側の準備体制・機会が整っていない(5)
- 組織的な対応ではなく、個人的な対応に任せている(2)
- 情報収集・交換の場がない(1)



JOCV経験教員の還元・貢献活動

☺還元・貢献の潜在性と可能性(暫定版)

■国際教育協力の経験から学ぶ

- 地球人として生きる:日本の常識/世界の非常識、多様な文化・価値観の尊重、グローバル化の下でのつながり・かかわり・ひろがりの認識
- 日本の良さを知る:日本の良さ、地域の強みを知る
- 力を合わせる国際協力:技術移転の国際協力の発想から脱却
- 人と人の直接的つながり:かわいそうな途上国民という発想からの脱却
- コミュニケーション:価値観の尊重、言葉の重さ、個としての対応
- 豊かさの概念:人間開発アプローチへの移行、心の豊かさ
- 変容を促す教育実践:新規派遣教員・JOCV隊員・同僚教員・地域との連携を生かした日本の学校内外での教育活動



※1

■教員個人の能力向上／組織能力の向上—その潜在性・可能性

- 生きる力:確かな学力、豊かな人間性、健康と体力、との深い接点
- 持続発展教育(ESD):質の高い基礎教育の充実、MDGsとの整合性、道徳教育、つながり・かかわり・深まり・広がり、参加型・対話型学習と教授、互いが学び合い・変容を促す教育の実践、文化の尊重と地域学習、平和教育・環境教育・人権教育・国際理解教育・開発教育、など
- 教員の資質向上:グローバルな視野をもち、地域で活躍できる教員の育成
- 組織能力の向上:学級運営、校内分掌活動、安全管理・危機管理、地域連携のプロデュース、同僚教員との連携、部活動、生徒指導、総合的学習の時間、教科間連携、学校行事、キャリア指導、外国籍児童生徒対応、給食指導、など
- 国際教育協力に関する学びのサイクル:日本・地域全体での知見蓄積・共有



※2

※1: © S教諭(ドミニカ:小学校教諭)、※2: © K教諭(ウガンダ:小学校教諭)



JOCV経験教員の帰国後の還元・貢献 —その潜在性と可能性

